

虎年を迎えて

虎の絵はネコでない 証拠に竹を描き



専務取締役兼編集責任者 中野 富雄

虎は、こんな川柳があるぐらい、ネコに似ていますが、1日千里を走るといわれるほど機敏で、その剽悍な面構えと白黒黄のあざやかな美しい縞模様のある体軀は、ライオンと並んで百獣の王たる風格を持っています。

虎はアジア特産の猛獣で、わが国に棲息していたかどうかは詳かではありませんが、豊臣秀吉の朝鮮戦役の際、加藤清正の虎退治は今も絵巻物として飾られ、ライオンより日本人には親みが深いように思われます。

『虎穴に入らずんば虎児を得ず』とか、『虎は死して皮を残す。人は死して名を残す』など人生教訓の主演として扱われているのもなるほどと思われれます。『張子の虎』や雷様の『虎の皮のフンドン』はご愛嬌ですが、虎の毛皮の見事さはまた格別で、誠に死して尚その威容を伝えているようです。

今年はその虎年となりました。

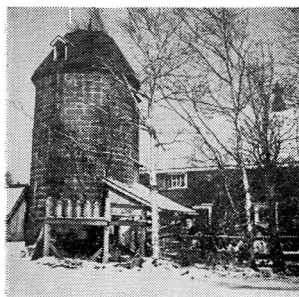
『牧草と園芸』の読者の皆さま、明けましておめでとうございます。

今年も、この虎にあやかって、皆さまがたくましく発展充実した年を過ごされるよう誌上を借りてお祈りいたしますとともに、弊社も事業を通じて皆さまに微力を捧げたいと念じておりますので、倍旧のお引立をお願い申し上げる次第でございます。

昨年は、誠に変転の年でありました。

世界的な食糧不足から石油の消費規制、それに加えて国際通貨の大幅変動と、これからの世の中は一体どうなるのか、先の見透しがますますむづかしくなってきました。

しかし、世界中の人間がより良い人生を願っている気持は一つでありますから、多少の変動はあっても、それを乗り越えて明るい明日があることを信じ、各人が自分の力に応じて、国際人としてのつとめを果たしてゆくことになりましょう。



のどかな畜舎風景

牧草と園芸 1月号 目次

北海道飼料作物多収穫事例とその栄養価	……表②
自給飼料の多収成績とその栄養成分	……表③
■虎年を迎えて	中野 富雄…… 1
■寒冷地における自給飼料の増産	三浦 梧 楼…… 3
■暖地における自給飼料の増産	森山 武…… 9
□暖地・家畜ビートの栽培利用	薄 巖……13

いろいろの問題の中で、最も重要なことは食糧問題であります。

人間の幸福は、心と体の健康であり、まず第一に体の健康を保つ食糧が量質ともに必要であることは申し上げるまでもありません。そして、逐年増加する人口を支える食糧確保体制が世界各国の論議の焦点となってきました。

その食糧はいうまでもなく農水産業から生産されます。

如何に重工業や化学工業が発達しても、それは食糧供給なしでは砂上の楼閣に等しいものです。まず、農水産業があって人間のエネルギーが生じ、それが工業、商業の発展を支えていることを忘れてはなりません。

工・鉱業資源に恵まれないわが国は、石油、鉄鉱初め世界の資源を蒐めて、これを加工輸出して今日の経済大国として繁栄をなすとげてまいりましたが、これを成しとげた国民のエネルギー源は農水産物にあったのですが、この食糧についても大量を海外農産物に依存してきたため、世界的な資源不足時代を迎えて、わが国は大きなショックを受けているのであります。

今や、『農は国の基』という言葉が真に切実な実感をもって人々の胸に迫ってまいりました。如何に交通や流通機構が発達しても、それぞれの国が自国民に必要な食糧は成しうるかぎり自国内で確保しようと思うようになってきたのは当然の成り行きであります。また、最近の各種公害の発生や生活環境の悪化に対し、緑の農業の役割の重大性も、あらためて認識されるようになり、農業は国民繁栄の基礎であることを重ねて強調する時代となりました。

わが国の現況では、主食である米と野菜、果物は概ね自給の域に達していますが、穀類の中では、麦、大豆の大部分は輸入に依存し、畜産物も80%以上自給しているかに見えますが、家畜を養う濃厚飼料源はほとんどが輸入穀物であることを考えれば自給度は極めて低いと考えなければなりません。

鉄や石油は資源がなければどうにもなりません、空気や水の利用、太陽熱や地熱の開発と共に、食糧増産や海洋資源の開発はわが国にも可能のは

ずです。

食糧の中でも需要が増えて不足勝ちな畜産物は、人間の必須養分である蛋白質源として、重要であり、わが国古来の蛋白質源の大豆や魚貝類の供給に限度が見られることを思えば、米作とならんで畜産を拡大し、それを支える飼料の自給度も成る高めるため、狭いとはいいながらも、この面の国土の新たな開発が必要と思われます。もちろんこのことはすでにとりあげられており、農用地の拡大、草地造成、飼料作物利用諸施設の強化などとともに、新たに飼料作物生産振興対策や飼料用穀物の国内増産対策あるいは畜産団地の造成などの農業政策が更に強く進められつつあります。とにかく、全量自給は困難としても、安易な農産物輸入に全面的に頼っていたことは、今さらながら反省すべき年を迎えたと思われます。

このような情勢下で、農業の基本資材である『種苗・飼料』を専門的に扱う弊社の使命は誠に重大であります。過去30年にわたって飼料作物種子の生産供給を通じて、飼料の自給に微力を捧げてまいりましたが、本年も重ねてつぎのことを畜産経営に関係する皆さまにおすすしめし、お役に立ちたいと念願している次第であります。

優良草地の拡大と老朽草地の更新

優良品種による自給飼料の増産

緑肥活用による地力培養

濃厚飼料節約型の雪印乳・肉牛育成方式

芝生と樹木による環境緑化

これらをおすすしめするため、弊社はさらに研究開発に力をつくし、より良き種苗の供給、合理的な飼料の製造、生活にうるおいをもたらす園芸種苗分野にも一歩前進を期し、従来の経験を活かして『緑の回復』にも、優良な芝生や樹木の供給に、この虎年を邁進したいと念願いたしておりますので、相変らざるご愛顧とご指導を賜りますようお願い申し上げて、年頭のご挨拶といたします。